



©Yat Ho Tsang



©K.Miura



©Mark Daams

佐藤俊介 (ヴァイオリン) × 鈴木秀美 (チェロ) × スーアン・チャイ (フォルテピアノ)

いま、世界でこれが熱い……

ガット弦とフォルテピアノで聴くブラームスの鮮烈な響き
絶妙な音色とバランス 室内楽の歓びの新発見

2017年
2月7日[火]
10:00発売



オール・ブラームス・プログラム

- ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 作品100
- チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 作品38
- ハンガリー舞曲より抜粋(ヴァイオリン&フォルテピアノ)
- ピアノ三重奏曲 第3番 八短調 作品101

2017年6月30日[金] 13:30開演(13:00開場)

浜離宮朝日ホール 全席指定・税込:5,000円

都営地下鉄大江戸線「築地市場」駅A2出口すぐ 朝日新聞社 新館2階 TEL.03-5541-8710

チケットの
お申し込み
お問い合わせ

朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990(日・祝除く10:00~18:00)

朝日ホール・オンラインチケット

アルテ・テラルコ・ホームページ <http://www.artedellarco.com/>
イープラス <http://eplus.jp/> チケットぴあ 0570-02-9999(PCODE322-966) [http:// t.pia.jp](http://t.pia.jp)
ローソンチケット 0570-000-407(オペレーター/10:00~20:00) <http://l-tike.com/>
0570-084-003(Lコード31845:自動音声対応24時間)

主催:朝日新聞社

協力:青葉区民文化センター フィリアホール

※やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、
曲目・出演者の変更に伴う払い戻しはいたしませんので、予めご了承ください。
※未就学児のご入場はお断りしております。託児サービス
をご利用ください。イベント託児・マザーズ(要予約) 0120-788-222

バロック音楽をオリジナル楽器で演奏するのはもはや一般的になった時代ですが、「ブラームスをオリジナル楽器で？」と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ブラームスの時代のピアノや弦楽器も、現代のものとは異なる部分が沢山あり、聞き馴染みのある作品も改めてお楽しみ頂けるコンサートになるのではないかと思います。

まず弦楽器において違うのは「弦」。ブラームスの時代には、現在使われているスチール及びナイロン弦ではなく、羊の腸をよじったガット弦がまだ一般的でした。ガット弦はスチールと比べ音色が暖かく豊かであり、人間の声に近いものがあるとよく言われます。倍音も複雑であるため鍵盤楽器などの他の楽器と調和しやすい特徴もあります。

チェロは現在、エンドピンによって支えられていますが、19世紀末期までは脚で挟んで弾かれていました。楽器の安定感などの利点もありながら、実はブラームスの時代のチェリスト達はエンドピンはプロの

チェリストが使うものではないかと思っていました。ドヴォルザークのチェロ協奏曲ですら、初演はエンドピン無しだったのです。

そして今回使用するピアノはJ.B.シュトライヒャーによる1870年代のウィーン式ピアノ。全く同じモデルのピアノが1872年からブラームスが亡くなる1897年までウィーンの自宅にあり(このピアノは世界大戦の戦火によって焼失)、1886年作曲のヴァイオリン・ソナタ第2番とピアノ・トリオ第3番いずれの作品も、このピアノの音色に馴染み切ったブラームスによって書かれたものだと言えるでしょう。

ブラームスの時代や環境にあった楽器を通して、「本来」のブラームスをダイレクトに味わえる演奏会はあまりないと思います。是非皆さんにブラームスをまるで初めて聴くかのように楽しんで頂けたら幸いです。

佐藤俊介

佐藤俊介 (ヴァイオリン)

Shunsuke SATO, Violin

モダン、バロック双方の楽器を弾きこなすヴァイオリニストとして、活発にコンサート活動を行っている。

バロック・ヴァイオリン奏者としては、コンチェルト・ケルンおよびオランダ・バッハ協会のコンサートマスターを務める。

モダンの分野では、日本の主要オーケストラはもちろん、ベルリン・ドイツ・オペラ管、バイエルン放送響、フィラデルフィア管、ポルティモア響、ナショナル響、シアトル響などと共演。

2010年、第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞など受賞も数多い。

2013年よりアムステルダム音楽院古楽科教授を務める。

録音も第62回文化庁芸術祭で大賞を受賞した「グリーグ: ヴァイオリン・ソナタ集」や、最新盤「テレマン: 無伴奏ヴァイオリンのための12の幻想曲」など。「バガニーニ: 24のカプリース op.1」では、世界で初めてガット弦とバロック・ボウを使った歴史的奏法で録音。



© Yat Ho Tsang

鈴木秀美 (チェロ)

Hidemi SUZUKI, Cello

神戸生まれ。文化庁芸術作品賞、レコード・アカデミー賞、サントリー音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞ほか多数を受賞。

18世紀オーケストラ、ラ・フティット・バンド、バッハ・コレギウム・ジャパンなどのメンバー・首席奏者を務めた。2001年にオーケストラ・リベラ・クラシカを創立、アルテ・デラルコからその録音やソロ、室内



© K.Miura

楽等をリリース中。ガット・カフェ、ガット・サロン等レクチャー及び室内楽のユニークなシリーズを各地で展開。指揮者として日本各地、オランダ、ポーランド、オーストラリア、ベトナム等のオーケストラに客演。2013年より山形交響楽団首席客演指揮者。著書に「『古楽器』よ、さらば!」(音楽之友社)、「ガット・カフェ」「無伴奏チェロ組曲」(東京書籍)。東京音楽大学チェロ科客員教授。東京藝術大学古楽科非常勤講師。雑司が谷鈍亭終身楽長。

スーアン・チャイ (ピアノ、ヒストリカル・ピアノ)

Shuann CHAI, Piano and Historical Piano

スーアン・チャイは、ピアノとヒストリカル・ピアノの双方で高い評価を受けている、活動的で魅力あふれる演奏家である。

米国オバーリン・カレッジでピアノ演奏と生物学の学位を取得し、ニューイングランド音楽院とオランダのハーグ王立音楽院を修了。これまでに、ジャック・ラダンスキー、ノーマ・フィッシャー他に師事。2010年に世界中から選ばれた8人のピアニストの一人として、バンフ・センターから全額奨学金を得た。2012年は同センターのアーティスト・イン・レジデンス。

2013年春にはジョン・ケージやプロコフィエフと、モダン・ダンスのコラボレーションによるツアーを成功させ、2013-14年は、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏に打ち込んだ。2011年、フォルテピアノによる初のソロアルバム「ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ集」がリリースされ、高い評価を得た。2010年よりザンダイク・ピアノフォルテ音楽祭の芸術監督を務める。



© Mark Daams



フォルテピアノ:
J.B.シュトライヒャー No.7150

関連公演情報

佐藤俊介 & スーアン・チャイ ヴァイオリン & フォルテピアノ デュオ・リサイタル

曲目
(予定)

ゲリット・ヤン・ファン・アイケン: ヴァイオリン・ソナタ へ短調 op.5
グリーグ: ヴァイオリン・ソナタ第2番 長調 op.13
クララ・シューマン: 三つのロマンス op.22
ロベルト・シューマン: ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 op.121

3/1(水)一般発売

2017年7月1日[土] 14:00開演 会場: フィリアホール(東急田園都市線青葉台駅前)
S 4,500円 A 3,500円 主催: 青葉区民文化センター フィリアホール 協力: 朝日新聞社

フィリアホールチケットセンター
045-982-9999 (取扱時間 11:00~18:00)

フィリアと浜離宮の2公演セット券もあります。
セット券(9,000円・税込)は3/1(水)取り扱い開始。
お申込はフィリアホールで電話予約のみにて取扱致します。